

**令和6年度対話の広場(湘南会場)**  
**「DXで変わる暮らしを探る～未来をつくるAI～」**  
**いただいたご意見等への対応状況等**

【対応区分】

- A: “対話の広場”をきっかけに、新規の計画・事業を検討する(対応する方向である)  
 B: “対話の広場”をきっかけに、既存の計画・事業の見直し等を行う(対応する方向である)  
 C: “対話の広場”開催時点にて、既の実施している(既に対応している)  
 D: 特に対応を予定していない。

| No. | 関係所属名                  | 参加者からの主な意見等  | 対応区分 | 対応状況(R7.3.14時点)  |
|-----|------------------------|--|------|--|
| 1   | 県土整備局<br>(交通政策課)       | 善行地区を自動運転バスの実証実験の対象としてほしいと。善行地区は、神奈川中央交通の他に乗り合いバスが1台走っている。他の地区より採算がとれており、また職員の方の話では、人件費が高いことから自動運転バスの導入を希望していると聞いた。高齢者が多く坂が多い善行地区では、地域を循環する公共交通機関が欠かせない。この善行地区を自動運転バスの実証実験対象エリアとして検討していただくことは可能か。また、今後の神奈川県内を走る路線バスの在り方について伺いたい。   | C    | 自動運転バスについて、県は、実証実験の実績のない県西地域において導入に向けた検討を進めており、そこで得られた知見やノウハウを、県内の他の地域に展開していきたいと考えているため、現時点で藤沢市善行地区での実証実験は予定していません。<br>また、地域の移動手段の確保は、実情を把握している市町村が主体となって取り組むものと認識していますが、路線バスは、地域の移動手段の柱と考えており、県としても、運転手不足によるバスの減便に対応するため、バス運転手の確保に向けた支援を行うなど、地域の移動手段の確保に向けた取組を進めていきます。  |
| 2   | 福祉子どもみらい局<br>(共生推進本部室) | AIでやって欲しいこととしまして、「DV(ドメスティックバイオレンス)」と「ハラスメント」。こちらをAIでわかるようにして欲しい。<br>まず、DVって何なのか、どういう行為がDVなのか、多分正確には皆さんわからない。そのDVを相談するために、男女共同参画センターに相談窓口があるが、窓口の担当は、女性が多く、男性は非常に少ない。DVというのをカテゴライズして、その強弱をつけることで、ある程度DVの深刻度もわかり、これらを達成することで、男女共同参画センターの予算部分の見直しもできるのではないか。<br>もう一つはハラスメント。これも各企業の管理職の方々、皆さんどの行為がハラスメントに当たるのか、正確にわからない中で働いている。特にセクハラというの、どの行為がハラスメントにあたるのかまではわからない中で、この行為がハラスメントに当たるとかそういう指標があることで、管理職の方々も非常に働きやすくなる。 | C    | DVは家庭の中で起き、見えにくいものであるため、どのような行為がDVとなるのか皆さんに知っていただくことは、DV防止と被害者支援のために大変重要と考えています。<br>同時に、自分が受けているのがDVかどうか分からないという方などに、寄り添って丁寧に話を聞くことで、DVの早期発見につなげることも重要です。<br>AIを利用したDV対策をご提案いただきましたが、県はDXを活用して、声から心の分析を行うシステム「ミモシス」を「マイME-BYOカルテ」に導入するなど、テクノロジーを活用して、見えにくいものを見える化するといったアプローチにも取り組んでいます。<br>今後も、県では、テクノロジーを活用した取組みとともに、DVとはどういうものかを周知啓発したり、女性だけではなく男性のための相談窓口を設けるなど、様々な方法を使ってDVの未然防止や被害者支援に取り組んでいきます。 |
|     | 産業労働局<br>(雇用労政課)       | これを、神奈川県でやっていただくということで、神奈川県では働きやすいまち、さらに、家族で過ごしやすいまち、こういったものに繋がっていくのではないかと思います。  |      | 県では、事業主の義務である職場におけるハラスメント防止対策の普及啓発を行うため、職場におけるパワーハラスメントの指標を記載した、中小企業のためのパワハラ対策マニュアル等を作成し、県ホームページへ掲載しています。  |
| 5   | 政策局<br>(いのち・未来戦略本部室)   | アプリを用いて健康管理をしようと言っていたが、それをより生活に浸透させるために、どのようなことが大切だと考えられるか。  | C    | スマートフォンアプリ「マイME-BYOカルテ」にて、4領域(生活習慣、認知機能、生活機能、メンタルヘルス・ストレス)15項目から簡単に体・心・脳を総合的に見える化する未病指標を実装し、提供しています。<br>この未病指標を生活に浸透させていくためには、日常で健康について関心が高まるタイミングでの利活用が重要だと考えます。そこで、認知機能について関心が高まる、高齢者の運転免許更新時の待合室等において、未病指標の現場測定を常設し、利活用の促進を図っています。  |
| 10  | 産業労働局<br>(産業振興課)       | ロボットに関しては神奈川県に特区があるが、神奈川県がどういう立ち位置で重要だと考えて特区を打ち出しているか、また、国際的に見ても、神奈川県という立ち位置がどういうふうに必要なのか、ビジョンがあれば伺いたい。  | C    | 日本は世界で最も高齢化が進んでおり、神奈川県は、全国を上回るペースで少子高齢化が進行しているため、介護ロボットを含む生活支援ロボットの実用化と普及促進により、県民の安全と安心を確保し、県経済を活性化するために重要な取組として打ち出しています。  |

**令和6年度対話の広場(湘南会場)**  
**「DXで変わる暮らしを探る～未来をつくるAI～」**  
**いただいたご意見等への対応状況等**

【対応区分】

- A: “対話の広場”をきっかけに、新規の計画・事業を検討する(対応する方向である)  
 B: “対話の広場”をきっかけに、既存の計画・事業の見直し等を行う(対応する方向である)  
 C: “対話の広場”開催時点にて、既に実施している(既に対応している)  
 D: 特に対応を予定していない。

| No. | 関係所属名                            | 参加者からの主な意見等  | 対応区分 | 対応状況(R7.3.14時点)   |
|-----|----------------------------------|--|------|---|
| 11  | 教育局<br>(総務室ICT推進G、高校教育課、特別支援教育課) | 教員不足という言葉を目にするが、それに対して、例えばAI教師やAIによる映像資料など、今神奈川県がどういう対策を考えているのか伺いたい。 | C    | <p>県教育委員会では、生成AIの活用について、文部科学省が示しているガイドラインを踏まえ、一律に生成AI利用の禁止や義務付けを行うものではないという認識の下、児童・生徒がその性質などを理解した上で、適切に活用していく情報活用能力を身に付けることが重要であると考えており、生成AIを授業や校務等において適切に活用しているところです。</p> <p>活用にあたっては、利用する生成AIの利用規約等を確認した上で、個人情報や著作権侵害等に留意しつつ、活用しています。</p> |